

## 「超録」を使って スピーキングテスト データ管理

今井裕之 Imai Hiroyuki  
(兵庫教育大学)



HDD長時間録音機「超録」のメイン画面 (<http://pino.to/choroku/capture.html>)

スピーキングテストを実施する人が増えているように思う。「実践的コミュニケーション能力」という教育目標を考えると望ましいことだが、実際、テストの考案・準備・実施から、しっかりした基準での評価、生徒に役立つフィードバック、事後のデータ管理までを考えると、つい二の足を踏んでしまう人も多いと思う。

データ管理が苦手な人にとっては、生徒のスピーチなどをテープやビデオに録って棚に並べるうちに膨大になり、だれのデータがどこにあるのかわからなくなってしまったケースもあるのではないだろうか。第一、保管場所も相当必要なうえに、テープだと再生の際の頭出しが難しい。そんなデータ管理の悩みを解消し、いつでも簡単に個々の生徒のデータにアクセスでき、授業でのスピーキング指導に生かすことができるソフトが、今回ご紹介する「超録」である。

「超録」は、スピーキングテスト開発の共同研究を行っている荒井慎也先生(岡山城東高校)に紹介してもらった、パソコンに音声を録音するソフトなのだが、そのメリットとして、

- 1) 操作が(比較的)簡単
  - 2) データファイルが小さめ(6分間のデータで2.4MB!)
  - 3) MP3(ファイル形式)で録音でき、再生メディアも多様
  - 4) フリー版もある
- などが挙げられる。

スピーキングのテスト方法もさまざまだが、教師からの質問や絵、文字などの「キュー」を与えて、

生徒の発話を引き出し記録するのが一般的な方法だろう。例えばこんなやり方はどうだろうか。まず、生徒の発話を「超録」で録音する。これをパソコン上で再生しながら、ファイル管理ソフト(ファイルメーカーなど)で作った個人レコード画面に、発話を書き起こす。大変そうに思われるかもしれないが、中学生の発話速度ならば、たいていはタイピングの方が速いので聞きなおす手間はなし、なにより生徒(と自分)の英語力がひしひしと伝わる貴重な体験になる(生徒自身に書き取らせることも可能かもしれない)。レベル評価や生徒へのコメントを書きこみ、さらに音声ファイルを貼りつければ、その生徒のスピーキング力をぎゅっと「真空パック」できる。出来上がったレコードを使って、音声、スクリプト、評価、コメントを提示しながらフィードバックすれば、A,B,C評価だけの場合と違い、その鮮度、きめ細かさは遥かに高いであろう(よいフィードバックには、確かな評価尺度が不可欠だが)。

スピーキングは、たとえテストであっても教師にも生徒にも楽しいものである。時間は多少かかるが、毎週するわけではなく、半年か一年に一度くらいが「伸び」を実感できる適度なインターバルだろうと思う。それくらいの頻度なら、と思える人にはぜひ試してみてほしい。どんな外部テストにも劣らぬ教育資産になるはずである。

この「超録」は、ウェブサイト(<http://pino.to/choroku/>)からダウンロードできる。ウインドウズ版しかないが、MP3で録音すれば、あとはMac or Windowsである。なお、貴重かつ個人的なデータだけに、バックアップと流出防止には細心のご注意を。